

e-アジア国際シンポジウム (e-ASIA International Symposium)

赤城三男

武田計測先端知財団専務理事

目次

- 1 . 財団概要とe-アジアの取組
- 2 . e-アジア国際シンポジウムの目的
- 3 . e-アジア国際シンポジウムの目標
- 4 . e-アジア国際シンポジウム2011 結果
- 5 . e-アジア国際シンポジウム2012 計画

1. 武田計測先端知財団概要

武田郁夫が私財を提供して2001年設立。地球上の全生活者の富と豊かさ・幸せを増大させる先端科学技術とアントレプレナーに光を当て、生活者の視点に立ったメッセージを発信する。

ARA以外の事業概要

武田シンポジウム

東京大学武田先端知ビルで毎年2月はじめに開催。生活者を豊かにする先端科学技術やアントレプレナーを紹介。昨年は、「ゆらぎ」をテーマに、「はやぶさ」の川口淳一郎氏、「宇宙インフレーション理論」の佐藤勝彦氏、「1分子イメージング技術」の柳田敏雄氏が講演。これまでに、年1回9回開催

アントレプレナーの調査

情報電子系のアントレプレナーを調査し、アントレプレナー列伝として出版、2012年11月に5冊目を出版予定

カフェ・デ・サイエンス

専門用語を使わないで市民と科学者の対話を行なう。堀田凱樹氏（遺伝子・脳・言語）、織田孝幸氏（数学）、大島泰郎氏（生命）、池内了氏（パラドックス）、長瀧重信氏（放射線）などが参加。これまでに40回開催

科学技術の国際連携戦略関連活動

2009年12月

科学技術の国政連携戦略に関する政策提言 中間報告
「アジア研究圏の創設」を提言

2010年5月

第1回「科学技術の国際連携戦略シンポジウム
- アジア研究圏の創設に向けて -」を開催

2010年12月

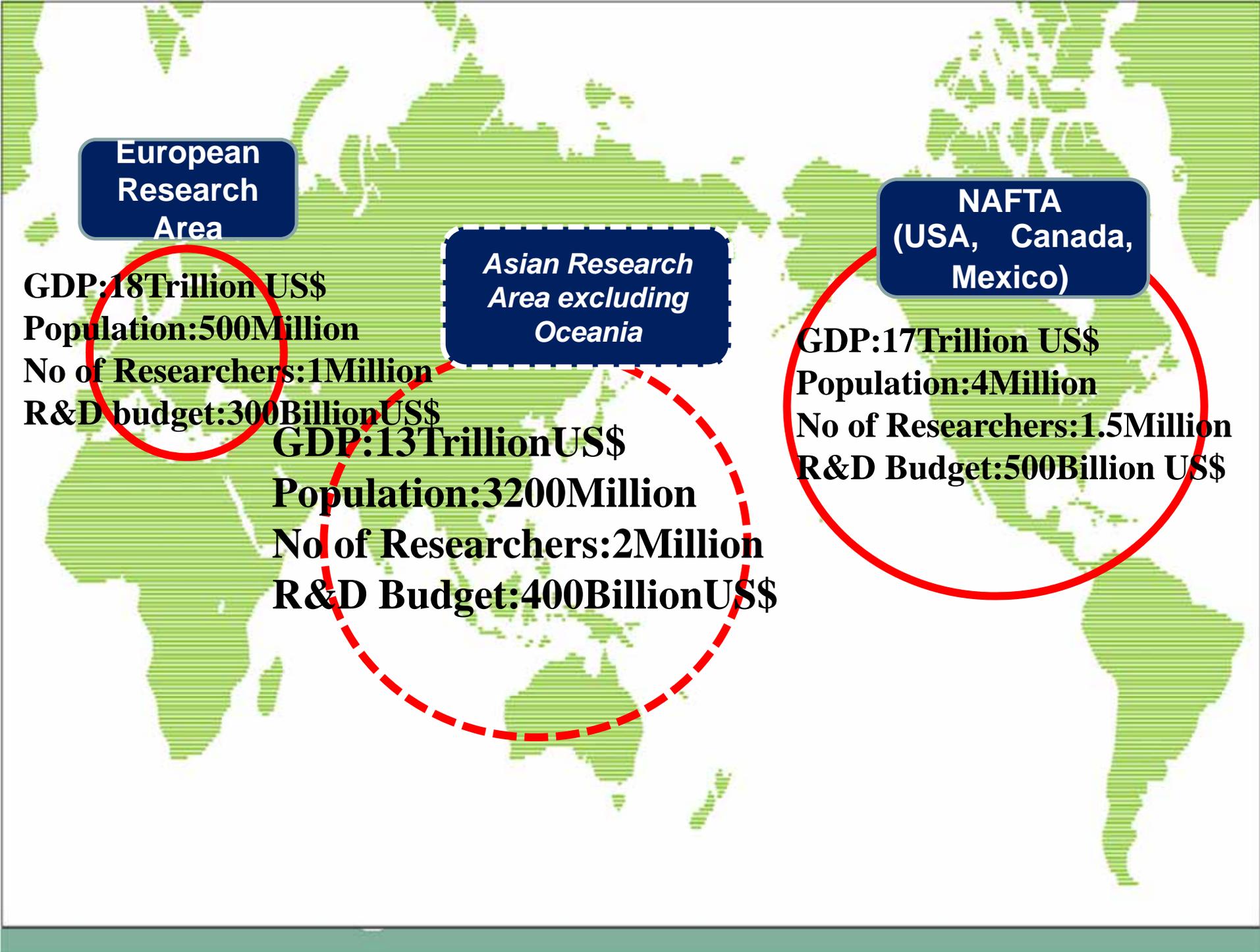
第2回「科学技術の国際連携戦略シンポジウム
- アジアとの共創の時代へ向けて -」開催

2011年12月

e-アジア国際シンポジウム「国際政策対話
- アジアにおける科学技術の国際連携 -」を開催

2012年10月

e-アジア国際シンポジウム「国際政策対話
- アジアにおけるイノベーション・エコシステム -」を開催予定



**European
Research
Area**

GDP:18Trillion US\$
Population:500Million
No of Researchers:1Million
R&D budget:300BillionUS\$

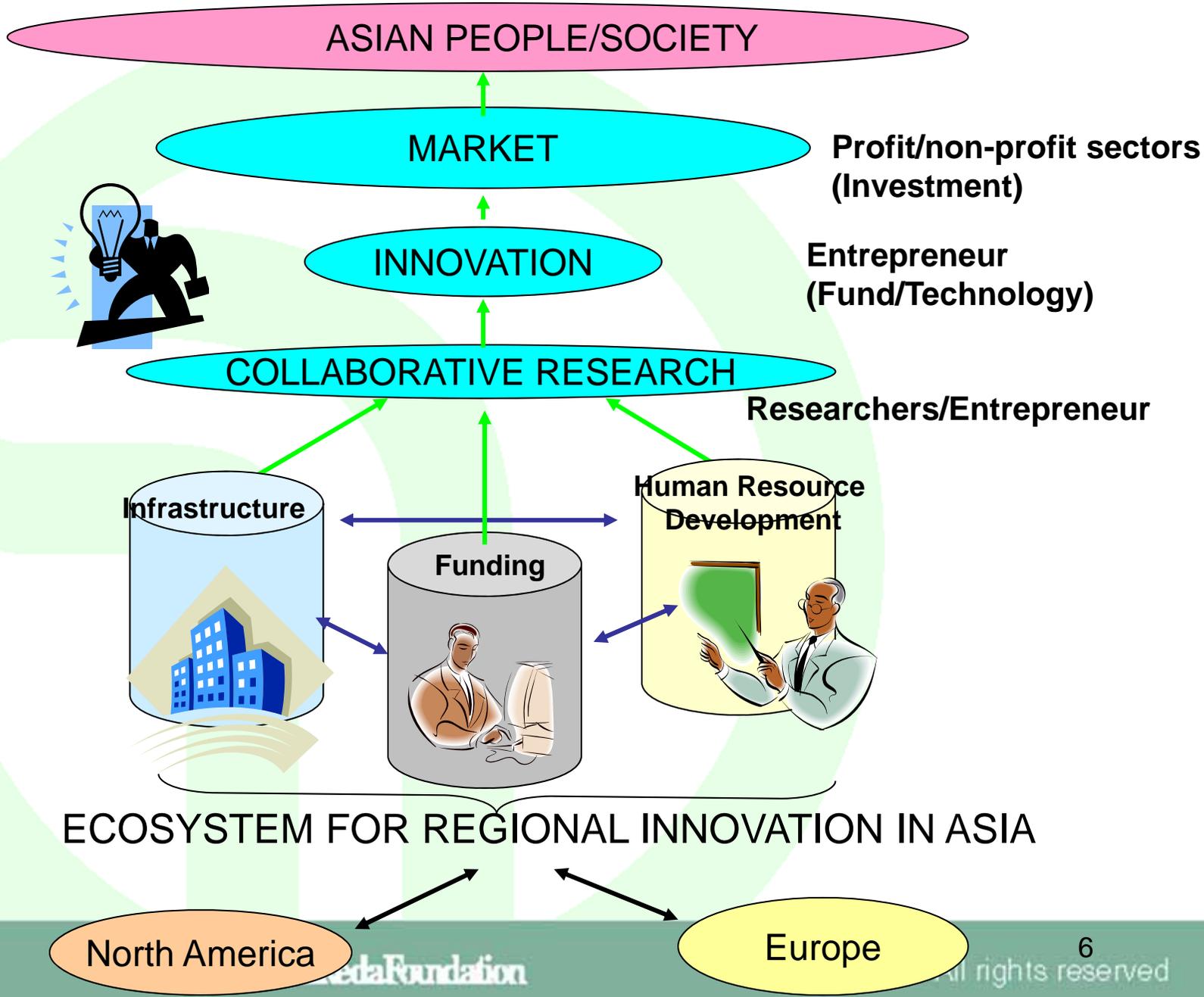
**Asian Research
Area excluding
Oceania**

GDP:13TrillionUS\$
Population:3200Million
No of Researchers:2Million
R&D Budget:400BillionUS\$

**NAFTA
(USA, Canada,
Mexico)**

GDP:17Trillion US\$
Population:4Million
No of Researchers:1.5Million
R&D Budget:500Billion US\$

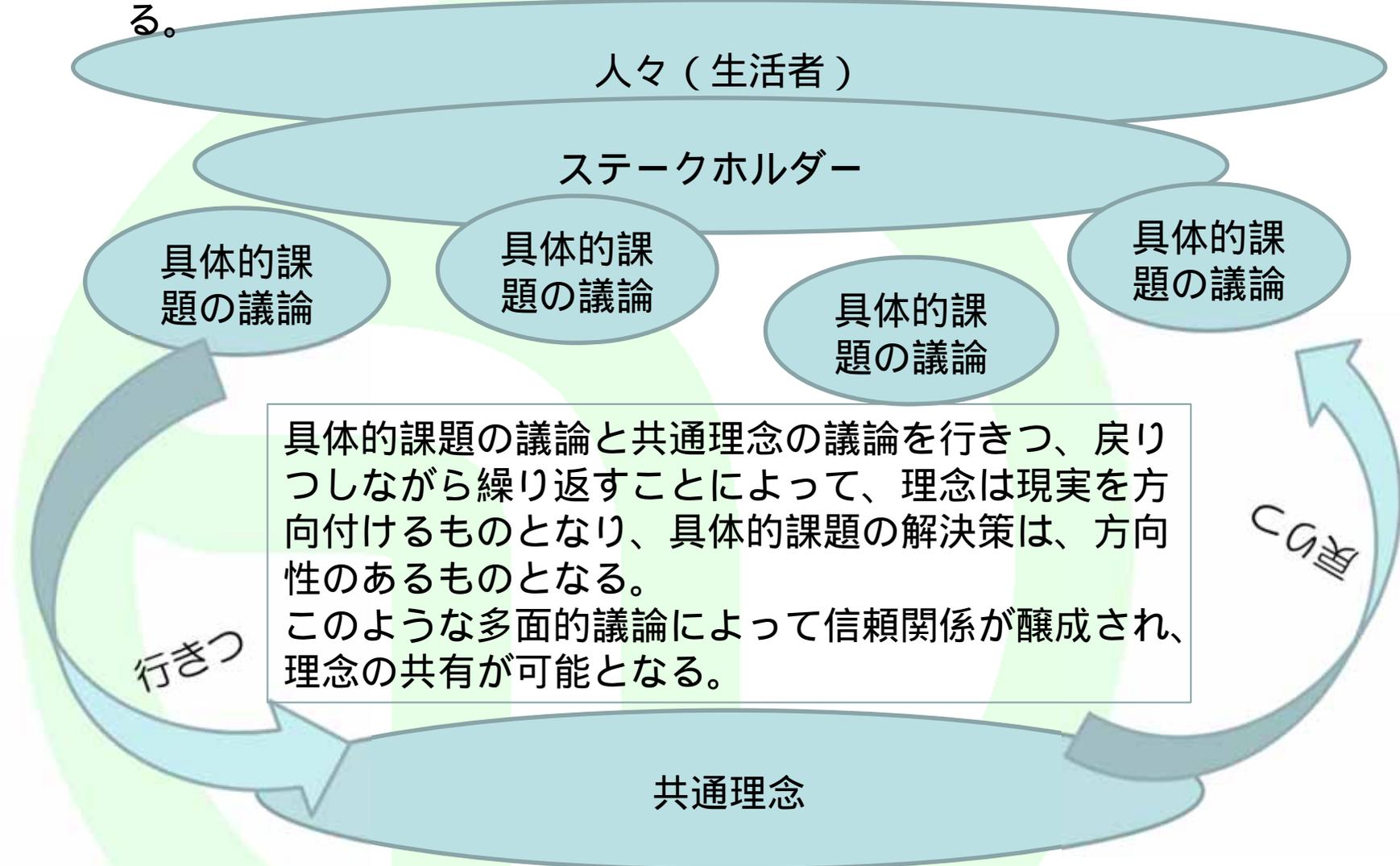
アジア研究圏GOAL



2. e-アジア国際シンポジウムの目的

- 政治的な制約にとらわれない議論と意見交換
- 多様な選択肢を探り、政府間交渉が進展する環境を作る
- 日本政府の東アジア・サイエンス&イノベーション・エリア構想(e-アジア構想)を民間の立場から支援する。
- アジアからの参加者のe-アジア構想を中心とする科学技術の域内連携についての理解を深め、連携に向けてのモメンタムを拡大する。

人々にとって何が必要なのかを常に意識。人々は必要なものを選択する。



現実から遊離せず、現実に埋没しない多面的議論

3. e-アジア国際シンポジウムの目標

	2011	2012	2013
目標	1)信頼醸成と理解促進 2)Fact finding 3)キーパーソン同定 4)社会的合意形成	1)信頼醸成と理解促進 2)キーパーソン同定 3)国際諮問委員会 4)社会的合意形成	1)信頼醸成と理解促進 2)連絡協議会 3)社会的合意形成
参加国	5)アジアの過半数の 国々(7カ国以上10人 以上)	5)規模を拡大 (10カ国以上15人以上)	4)インドから日本までの 全てのアジア諸国参加
成果物	6)Discussion paper 7)Overview	6)Policy Proposals 7)Project formation	5)声明文採択 6)Project formation

4. e-アジア国際シンポジウム2011の結果

1) 信頼醸成と理解促進

まる1日かけたワークショップと翌日のパネルディスカッションにより、参加者間の信頼が醸成され、各国の課題と域内連携による解決策を率直に議論することができた。その結果、「**パネリスト全員が科学技術の域内連携の重要性を認識**」という総括が了承された。



12月15日国際ワークショップ



12月16日パネルディスカッション

2) FACT FINDING

- 研究者・学生 の国境を越えた移動が全く不十分
- 一方、域内の人の移動を加速化させると、域内における人材の偏在化が起こる
- 医療人材を海外に提供している国では、地方における医療人材不足が顕在化
- 国によっては、大学と産業界の連繋が全く不十分
- 水、公衆衛生、交通手段等の基本的インフラの未整備のため、膨大な人口が経済成長に参加できなくなっている
- 一国の研究開発力強化のためのシステムでは、域内共同研究支援を有効に行うことが困難
- 後発ASEANでは研究施設が未整備なため国際共同研究を自国で行うことが困難

3) キーパーソン同定



Krisada教授
元SEEDNet 事務
局長、タイニチ工
業大学学長



インドネシア: Tatang Taufik
氏 インドネシア最大の
公的研究機関BPPTの副長官



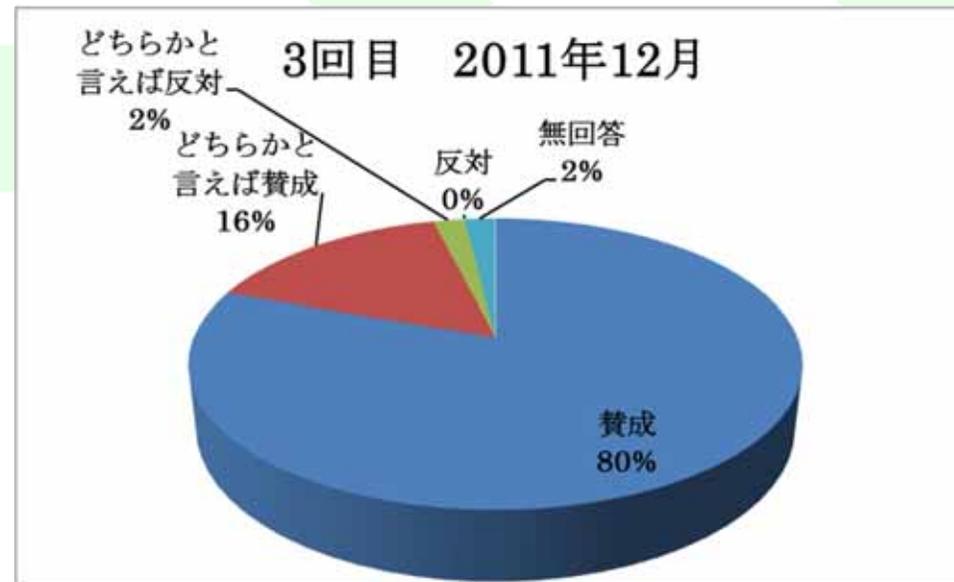
Seethararm教授
シンガポール国立大学
の著名教授。水と都市問
題の専門家



Dong-Pil Min教授
KCFST前理事長
現在韓国科学技術大使

4) 社会的合意形成

12月16日の国際シンポジウムで、中川文部科学大臣、大島JICA顧問、相澤総合科学技術会議議員、赤松伊藤忠専務、Dong-Pil Min氏が、日本の科学技術政策、国際科学技術協力、グローバル人材育成、グリーンエコノミー等について講演。域内連携の重要性を強調。



会場アンケート結果

5) 参加国

- インド、インドネシア、シンガポール、タイ、マレーシア、ラオス、フィリピン、韓国、EU駐日代表部、米国NSF東京事務所、(中国)が参加



6) Discussion Paper

- 若手研究者・学生の国境を越えた移動促進
- 大学と産業界の連繋促進
- 地域の基本的ニーズ解決による貧困層の経済活動への参加促進
- 域内における人材・技術・資金の補完によるイノベーションの促進
- 科学技術における蓄積を生かした日本のイニシアチブ
- イノベーション、人材育成、頭脳循環、国際共同研究促進のための国際オープン・イノベーション・センター

7) 総括

- **パネリスト全員が科学技術の域内連携の重要性を認識**
- 科学技術の域内連携の目標を共有する必要性
- 地域における基本的なニーズに対処するためにはアプロープリエイト・テクノロジーのような技術開発が必要
- 多くの国で若い世代が科学技術に興味を失っており、若者と科学技術を結びつける仕組みが必要
- 研究インフラでは、innovation促進、人材育成、文化交流、頭脳循環を促進するため、産官学共同出資による国際的なopen innovation research center設立の必要性が指摘された。
- イノベーションの地平の拡大に対応した国際共同研究プログラムや国境を越えた資金配分メカニズムが必要
- **地域共通の課題を解決すべく、日本は主導的な役割を果たすべき**

5. e-アジア国際シンポジウム2012 計画

目 標

- 1)信頼醸成と理解促進
- 2)キーパーソン同定
- 3)国際諮問委員会
- 4)社会的合意形成
- 5)規模を拡大
- 6)Policy proposals
- 7)Projects Formation

1)信頼醸成と理解促進

国際ワークショップ開催(10月19日午前/午後20日午前)
議題

- ・ 研究者・学生の移動の促進(ビザ、移動促進プログラム等)
- ・ 大学と産業界の連繋促進(各国の例)
- ・ 起業家育成(若手研究者参加)
- ・ 域内のイノベーション促進プログラムと国境を越える資金配分メカニズム
- ・ 地域の基本的ニーズを満たす技術開発
- ・ 国際オープン・イノベーション・センター

2)キーパーソン同定と3)国際諮問委員会

- 前回同定したキーパーソン(シンガポール Seetharam教授、インドネシアTatang氏、タイKrisada学長、韓国Dong-Pil Min教授)に諮問委員を依頼
- 国際ワークショップ、シンポジウムでの議論を通じ、シンガポール、インドネシア、タイ、韓国以外の国からの参加者からキーパーソンを同定し、諮問委員を依頼

4) 社会的合意形成

- 一般に公開する国際シンポジウム開催
- 地域の基本的ニーズを満たすイノベーションに焦点を当てる
- 基調講演:検討中
- 招待講演: 検討中
- パネルディスカッション:科学技術連携によるイノベーション創出

5) 規模を拡大 (10か国15人以上)

- 前回のシンポで同定されたキーパーソンと新規の有識者を招へい
- 新規招へい者の選定には、協力者、協力機関のネットワーク活用

JICA: ラオス、カンボジア、ミャンマー、
バングラデシュ

本田財団: ミャンマー、カンボジア、台湾

EAJ: ベトナム

協力者: 台湾、中国、香港

新規招へい者（予定）

参加国	
India	Indian Institute of Technology 関係者
Malaysia	Forest Research Institute Malaysia
Thailand	Wilaiporn Chetanachan, Director of Corporate Technology Office of The Siam Cement PCL
Laos	Mr. Saykhong SAYNASINE, Vice President, National University of Laos
Philippines	フィリピン大学工学部 関係者
Vietnam	Le Anh Tuan, Vice Director, Hanoi Institute of Technology
Myanmar	Mya Mya Oo, Rector, Yangon Technological University Dr. Myint Wai, Chairman, Myanmar Association of Japan Alumni
Taiwan	台湾工業技術院 関係者
Cambodia	OM Romny, President, Institute of Technology of Cambodia
Bangladesh	Jamilur Reza Choudhury, Vice Chancellor, BRAC University
Hong Kong	Hong Kong University of Science and Technology 関係者
China	薛瀾 (Xue Lan)、清華大学公共管理学院院長、教授

6) Policy proposals

- **事前調査**

専門家ビザと移動促進プログラム
資金配分メカニズム

- **民間企業から聞き取り調査**

アジアにおける国際オープン・イノベーションセン
ター設立可能性について

- **事前説明**

事務局がProposal案を作成し、事前に国際諮問委員
会、主だった参加者に事前説明。

7) Projects Formation

- 既存の国際共同研究(e-ASIA JRF、SATREPS、SEED-Net等)の枠組みを利用し、国際ワークショップで議論する中で具体的なプロジェクトの発掘を行う。

終了時に見込まれる具体的な成果

- 招へい者の域内連携への理解促進とモメンタムの拡大
- 一般参加者の域内連携への合意形成
- 域内連携を進めるための政策提言

実施体制

- 主催: 武田計測先端知財団
- 共催: 政策研究大学院大学、日本工学アカデミー、国際協力機構、本田財団
- 武田計測先端知財団は、招へい者の決定、招へいに関わる事務作業、国際会議開催に関わる事務作業を行う
- 共催機関は、招へい者の選定、会場の提供、国際対話への参加などで協力する

国際政策対話2012のテーマ

国際政策対話2012

- アジアにおけるイノベーション・エコシステム -

INTERNATIONAL POLICY DIALOGUE 2012

-ECOSYSTEM FOR REGIONAL INNOVATION

10月19日金曜日全日、20日土曜日午前にワークショップ、
20日午後に国際シンポジウム開催

実施スケジュール

- 6月上旬 事務局設置、連絡会、諮問委員会開催
- 6月中旬 国内・海外講演者招へい開始
- 7月下旬 参加者との事前調整のために海外出張(事務局)
- 8月下旬 国内、海外招へい者決定、国際シンポジウム参加者募集開始
- 9月上旬 内閣府、文科省、経済産業省、外務省後援依頼手続き開始
- 10月18日 招へい者到着
- 10月19日 国際ワークショップ
- 10月20日 国際ワークショップ/国際シンポジウム
- 2月下旬 成果物出版・発送



ご清聴ありがとうございました

URL <http://www.takeda-foundation.jp/>